



岡山県マスコット「ももっち」

令和6年度勤務実態調査の結果について

令和6年6月に教職員の勤務実態調査を実施しました。今回はその結果等について紹介します。

Pick Up!

全ての校種で時間外在校等時間が減少

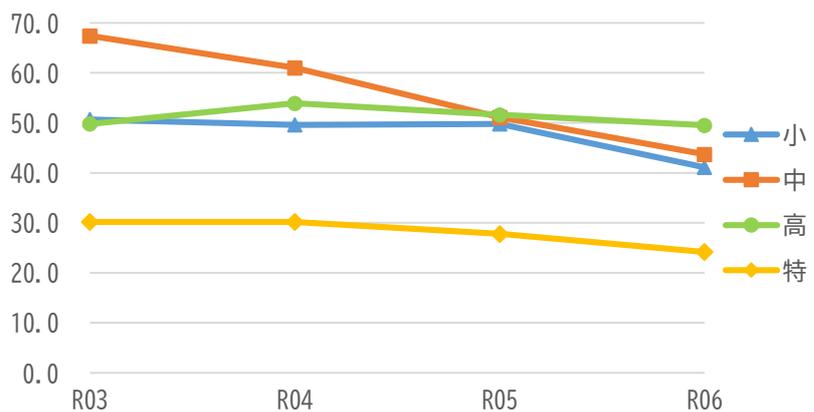
各学校、各教育委員会が自分事として取組を進めた結果、昨年度と比べて月当たりの時間外在校等時間は、小学校・中学校では**8時間程度**、高等学校・特別支援学校では**2～3時間程度減少**しています。

特に成果のあった取組として、次のようなものが考えられます。

- 教師業務アシスタント等の外部人材の活用
- 校務DXの推進
- 余剰時数の削減
- 児童生徒の登下校時刻の見直し
- 学校行事の縮減

	(R5.6月調査)	(R6.6月調査)
小学校	約49.8時間	約41.1時間
中学校	約51.1時間	約43.7時間
高等学校	約51.6時間	約49.5時間
特別支援学校	約27.8時間	約24.2時間

※小・中学校は各学校種約1割の抽出校の結果
高等学校・特別支援学校は全県立学校の結果



一方で時間外在校等時間は減少しているものの、

- 時間外在校等時間が80時間を超える教職員が特別支援学校を除いて「ゼロ」になっていないこと
- 週休日の業務の従事状況が大きく変わっていないこと

は問題であると考えています。「岡山県立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則」では、**1年当たりの時間外在校等時間の上限が360時間以内**となっており、「令和4～6年度 学校における働き方改革 重点取組」では、**時間外在校等時間が月45時間超の教職員ゼロを目指すこと**としています。引き続き、取組を進めていただくようお願いいたします。

負担を感じている業務

勤務実態調査の結果では、「学校の運営にかかわる業務」に負担を感じている教職員の割合がどの校種でも高くなっていました。外部人材の活用や校務DXを推進することで負担軽減につながると考えられます。

令和5年3月に改訂された、文部科学省作成「働き方改革事例集」も参考にしてください。

